



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内373)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
所報 No. 561
発行責任者 所長 塚本 修
発行日 令和4年 1月21日
題 字 山田 恭正 教育長



ぴっかりこまつり…異年齢活動
各クラスがお店を開いて交流しました。

『ぴっかりこまつり
〜メロンケーキをください〜』

撮影 駄知小学校附属幼稚園
三宅 淳子 先生

櫻(たすき)

土岐市教育研究所長 塚本 修

あけましておめでとうございます。17日間という例年になく長い冬休みでした。日々の激務で疲れ切った心と体を休めることはできたでしょうか。休み中大きなけがや事故もなく、新学期を迎えましたこと、心より感謝申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、今年の正月も、例年通り「箱根駅伝」をテレビで観戦しました。圧倒的強さを発揮しての優勝、15年ぶりの第1区区間新記録更新、恩師から教え子への櫻りレーなどが印象に残りました。きっと選ばれた人にしかできない貴重な経験だったと思います。間違いなく今後の陸上人生、選手の人生、仲間達の人生に生きるはずです。

今年も繰り上げスタートはあったものの、途中棄権は1校もありませんでした。駅伝でつなぐものはたった1つです。「櫻」です。仲間の汗のしみ込んだ櫻を必死でつなごうと走り続ける姿に、毎年のように感動します。では、どんな想いでその「櫻」をつなぐのでしょうか。勝つため…チームのため…伝統を守るため…自分のため…仲間のため…就職のため…彼女のため…。そして、制限時間内に決められた区間の距離を走りきった者だけが「櫻」をつなぐことができます。この日までの努力や仲間の想いなど、様々なものがつながっていきます。

卒業や進級まで、あと2ヶ月あまりとなりました。上級生から下級生へ、令和3年度から4年度へ、そして私たち教職員もしっかりと櫻をつながなければなり

ません。では、どんな櫻をつなぐのでしょうか。また、どんな想いで櫻をつなぐのでしょうか。駅伝は1人が棄権すると、全員が失格になってしまいます。私たちも来年度に向けて、しっかりと決められた区間を走り切り、1人の棄権者を出すことなく、学級や学年の子どもたちを導かなければなりません。下級生へ、4年度へ、そして子どもたちへ、何をつなぐのか。どんな想いでつなぐのか。明確にしてこの2ヶ月あまりを乗り切っていきたいものです。

余談ではありますが…様々なドラマに心打たれた今年の箱根駅伝でした。ただ沿道では、例年よりも人出は少なかったとはいえ、何の遠慮もなく声援を送る…目立つプラカードを掲げる…携帯を片手にカメラに手を振る…選手と競争しながら歩道を走る…といった人もいました。選手の中には、コロナ禍のため、ずっと支えてくれた家族、恩師など世話になった人に「テレビ」での観戦をお願いした選手もいたはずですが。本当は「生」で見てもらい、成長や恩返しを示したかったはずですが。選手としてはやるせない思いです。しかし、大会が開催されただけでも感謝の思いが強い選手は、不平を言いません。沿道の声援は、選手の背中を押すのは間違いありませんが、心底から応援してもらいたい人は沿道に姿はなく、家で我慢してもらっています。沿道は出た者勝ちの状況です。何か違和感もちながらテレビを見ていたのは私だけでしょうか？言った者勝ち、やった者勝ちの子どもには育ってほしくはありません。

土岐市における外国人児童生徒の現状

～外国人児童生徒コーディネーターを通して見えてきたもの～

土岐市外国人児童生徒コーディネーター 林 奨 司

令和2年度の「学校基本調査」によると岐阜県内の小中学校における外国人児童生徒数は、3106人で令和元年度より234人の増加となっている。

土岐市の小中学校における外国人児童生徒は令和3年12月時点で139人、10年前の平成22年より67人の増加となっており、年々増加の傾向を示している（下図参照）。

《土岐市における外国人児童生徒数の推移》

	H22	H25	H28	R1	R3
小学校	49	60	79	86	85
中学校	23	34	34	43	54
合計	72	94	113	129	139

土岐市の外国人児童生徒数は、県下で7番目の多さとなっている。

市内の139人の外国人児童生徒のうち日本語指導が必要な児童生徒数は令和3年12月時点で87人であり、年々増加傾向にある（下図参照）。

《日本語指導が必要な外国人児童生徒数の推移》

	H22	H25	H28	R1	R3
小学校	19	33	42	60	53
中学校	1	10	15	18	34
合計	20	43	57	78	87

12月時点での市内の外国人児童生徒の国籍は、フィリピンが93人、ブラジル16人、中国9人など、15ヶ国に及び、多国籍化している。

このような状況を受け、昨年度教育総務課に「外国人児童生徒コーディネーター」の職が新設された。主な業務内容は、①学校訪問を通して、外国人児童生徒の生活状況や学習状況を把握する ②学校に在籍する日本語指導担当者等との懇談を通して、困り感や要望等を聞き、その解決に努める ③各校の日本語指導の実践を他校に紹介し、指導方法の工夫改善を図る ④ほとんど日本語が話せない児童生徒の

個別の初期指導を当該校に出向いて行うなどである。

コーディネーターとして学校訪問をしたり、日本語の初期指導を行ったりする中で、次のようなよさと課題が見えてきた。

○日本語指導を担当するどの先生方も、創意工夫を凝らして教材開発をしたり、教材収集をしたりして指導の充実を図っている。

○「取り出し指導」をする児童生徒の個別の支援計画を個の実態に応じて具体的に作成し、効果的な指導を展開している。

○意欲をもって学習に取り組む児童生徒が多く、着実に日本語や教科内容を習得している。

・日本語がほとんど話せない児童生徒に対する個別の初期指導を行う担当者がどの学校においても不足しているため、十分な初期指導が展開できない。

・言葉の壁や教科独自の用語の壁等があることで、教科内容がどの程度身に付いているかが測定しにくく、何年生の学習から教えていくとよいか分かりにくい。

・各学校における日本語初期指導の実践を市内の担当者の先生方が互いに交流し、指導方法等を改善する場がほとんどないためより効果的な指導を追究しにくい。

日本語指導が必要な外国人児童生徒が年々増加している現状への対応や上記の課題解決を図っていくためには、各学校における外国人児童生徒教育を担当する先生や支援員等の一層の確保と土岐市の「日本語初期指導教室」の設置が不可欠であり、現在その初期指導教室開設の実現に向けた取組を行っているところです。今後も、さらなる日本語指導の充実に向けた取組を展開していきたいと思っています。

令和3・4年度 東濃地区教育推進協議会指定「学級経営」研究推進校

令和3・4年度 土岐市教育委員会指定 研究推進校

土岐津中学校 中間まとめの会に向けて

1 生徒の実態

○与えられた課題や指示に対して、落ち着いて真面目に取り組む。

○基本的な学習姿勢（「挙手する」「話す」「聴く」など）が身に付いている。

▲自分の考えを進んで仲間に広げたり、学校生活をよりよくするために願いをもって働きかけたりするなど、主体的に仲間と関わり合って学びを深める姿が弱い。

▲自己肯定感が低く、夢や目標をもち、自信をもって行動することに弱さがある。

以上の実態より、学級経営の研究と実践を積むことが、「主体性」と「自己肯定感」を高めることにつながることをねらいとしている。生徒が主体的に学校生活を送り、仲間と認め合い、高め合いながら、自信をもって自らの進路を切り拓いていくことができることを願っている。

2 研究主題

主体的に活動し続ける生徒の育成 ～話し合い活動を通して～

全教科・教育活動において、「話し合い活動」を通して、研究主題にある生徒の育成を目指す。

<願う生徒の姿>

◎よりよい学校・学級生活を実現するために、願いをもって自ら考え、動き出すことができる。⇒主体性

◎仲間と認め合いながら、自分のよさや可能性に気づき、自信や誇りをもつことができる。⇒自己肯定感

3 研究仮説

特別活動を核としながら、教師も生徒も見通しをもつことができる指導計画を作成して活用し、生徒の意識を大切にした主体性を高めるための話し合い活動を工夫する。その中で個や集団のよさや変容を実感できる振り返りを位置

付けて見える化をすれば、主体的に活動し続ける生徒を育成することができるだろう。

4 研究内容

【研究内容1】 見通す

「見通しをもつための活動計画の作成と活用」

- (1) 指導の手立てを大切にした学年・学級経営案
- (2) 特別活動の3つの視点に基づいた指導計画
- (3) 支援シートを活用した事前調査・指導

【研究内容2】 話し合う

「主体性を高めるための話し合い活動の工夫と充実」

- (1) 学級の実態に応じた必然性のある議題設定
- (2) 役割と方法を明確にしたリーダー指導
- (3) 学級目標を意識した話し合い活動

【研究内容3】 振り返る

「よさや変容を実感できる振り返りの位置付けと見える化」

- (1) 仲間を認め合う生徒相互の評価
- (2) 学級の高まりを価値付ける教師による評価
- (3) 個や学級の高まりが分かる提示

5 今年度の実践

【研究内容1】（見通す）

○指導の手立てを大切にした学年・学級経営案を作成することで、教師も生徒も見通しをもって活動できている。

【研究内容2】（話し合う）

○役割と方法を明確にしたリーダー指導を行うことで、話し合いを主体的に進めることができている。

【研究内容3】（振り返る）

○朝の会や帰りの会の時間も利用し、生徒同士がお互いの成長やよさを相互に評価し合う場を設定することで、自身の変容を実感できるようになってきている。

1月24日(月)の中間まとめの会で、これまでの研究の過程と実践状況をお示しし、いただいたご指導を来年度の本発表に生かしてまいります。

【学力向上推進委員会の取組から】

令和3年度 西陵中学校の実践報告

学力向上企画委員 西陵中学校 澤田 直樹

西陵中学校では、授業の指導改善のポイントとして、以下の5つの手順を通して授業改善に取り組んでいる。

- ① この1時間で何ができるようになればよいかを一言で表現する。
- ② ①を評価する方法・活動を定める。
- ③ ②を行う時間を1時間の学習過程に位置付ける。
- ④ どの生徒も①に「到達した」状態になるように学習内容を吟味する。
- ⑤ ④に即して、学習過程や学習方法を検討する。

1 終末の姿の具体化と明確な課題の設定

第2学年 英語

「Unit 3 My Future Job」(不定詞)

1時間でできればよい姿を「感情とその要因を、不定詞を用いて主語1語 動詞1語の1文で書き表すこと」として、前単元で学習した「because」を使った表現を、to不定詞を使ってまとめた表現になることをねらった。そして課題を「不定詞の新しい用法を使って文章を書こう」とした。出口の姿を「書くこと」として、教師と生徒で共有した。それにより、対話的な活動を通して不定詞の用法を学ぶ際にも、例文を書くことを意識した交流がなされ、90%以上の生徒が、教師が意図した終末の姿に到達することにつながった。

第2学年 理科

「化学変化と原子・分子」

1時間でできればよいことを「スチールウールを燃焼させたときに酸素が結びつくことで、化学変化が起きたことを実験の結果を根拠に考え、説明できること」とした。目に見えない原子の動きや結びつきをイメージさせるためにモデル図を使うことを踏まえて、課題を「鉄を燃やすときにお

こる化学変化の様子をモデル図で説明しよう」とした。モデル図を用いたことにより、目に見えない酸素を可視化して、考えを伝えあう姿につながった。また、出口の姿に「実験の結果を根拠に考え」という一文を加えたことで、先生だけでなく生徒も「水位が上がった理由」がその根拠になるという意識が生まれ、iPadを用いて撮影した動画を繰り返し見ながら、モデル図と関連させて説明する姿につながった。

2 ICTの効果的な活用

理科では、実験において、物質が燃焼し、変化する様子をiPadで撮影し考察の際にいつでも見返すことができるようにした。スロー再生や繰り返し再生をしながら、一瞬で終わる化学変化をじっくりと観察し、捉えた変化を、一人一人が「モデル図」にすることで、指をさしながら、互いに考えを伝え合う姿につながった。その他の教科においても積極的な利用が進み、生徒たちの「できた、分かった」につながった。

3 今後の実践に向けて

ねらい・課題・出口が一貫した授業を行うことができた。また、それに到達するために、学習内容や方法とその過程を見届ける手段について工夫が見られた。今後は個別最適化された学習に向け、苦手な子への支援と、得意な子への支援の両面を教師が準備し、対話的な学習を通して、どの子も自分の高まりを実感できるように実践を積み重ねていきたい。



令和3年度 駄知中学校の実践報告

学力向上企画委員 駄知中学校 宮本 真実

駄知中学校では、土岐市スタンダード授業の重点である、以下の2点を意識した授業づくりをしている。

- ①広がり・深まりのある終末の姿の具体化
- ②「何を」「どう」すればよいかを明確に分かる課題設定

ここでは、英語科の実践を紹介する。

1 終末の姿の具体化

Unit 5「A Legacy for Peace」では、単元の終末に自分の憧れの人について英文を書く活動がある。また、複数の単元で学んだことを総括する Stage Activity2 が単元の後に位置付けられていることから、本単元では「書くこと」を重視して学習を進めることにした。最初の時間に生徒へ周知し、1時間ごとの学習が単元の終末活動に繋がることを導入で確認した。

本時は単元の終末で行った憧れの人について英文を書く活動の実践である。

【終末の具体】

憧れの人物について、その人の紹介や憧れている理由を明確にし、三段構成を意識して5文程度の英文で書くことができる。

2 明確な課題の設定

単元学習カードを各単元の最初に配付することで、生徒たちは本時に取り組む目的・場面・状況を理解し、言語活動を行う。まずは活動の概要を英文で課題化し、そこへ補足する問いかけをすることによって、「何をすればよいのか」を明確にした。

【学習課題】

Let's write the sentences about the person you respect.

課題では、①どのくらいの長さか(量) ②どのような形式で書くのか(構成) という点が曖昧なため、

- ①5文程度(量)の英文で
 - ②三段構成(構成)の文章を書く
- 以上の2点を補足し、活動に取り組んだ。

生徒同士で情報を付け加えたり、間違いを見つけて教え合ったりして、英文を完成させることができた。

3 ICTの効果的な活用

完成した英文を写真に撮ってロイロノートで提出させ、それをALTとともに添削・返信した。これにより、提出した生徒から順に、即時に指導することができた。また、直接書き込まずに修正・加筆ができたことで、生徒にとっても書き直しやすくなった。



【図：返信された文章をタブレットで確認する様子】

4 今後の実践に向けて

この授業のように、今年度は、「明確な課題の設定」と「終末の姿の具体化」を意識して実践を重ねてきた。3年生へのアンケートでは、「英語の授業では課題が明確に示されている」の項目で「とてもそう思う」が86%、「少しそう思う」が14%であった。「あまり思わない」「全く思わない」と回答した生徒はいなかった。しかし、「英語の授業では自分が何をすればよいか理解して取り組んでいる」の項目では、「とてもそう思う」が57%、「少しそう思う」が36%、「あまり思わない」が7%であった。

この結果から、課題は明確になっているものの、何をすればよいかという部分が理解しきれていない生徒もいることが分かる。今後は生徒が課題意識を持ち、より主体的に解決しようとする学習内容の工夫が必要である。

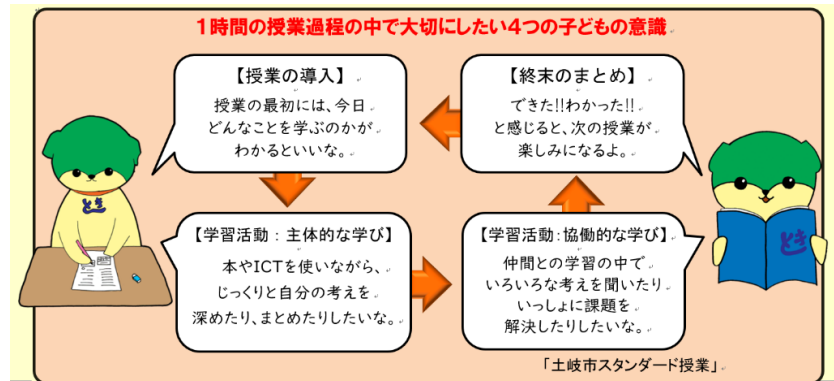
終末の活動やICTの活用は、各教科でも様々な実践をしているところである。今年度の実践を校内で共有し、連携して学力の向上を目指したい。

各小中学校の学力向上推進 ～学校訪問を通して(その3)～

学力向上推進リーダー 松原 敦也 (下石小学校 教頭)
教育研究所 主任 加藤 望

本年度、学力向上推進委員会として市内各学校の教育長訪問に同行しました。

各校の実践を市全体で共有することを目的に、学力向上推進委員会で大切にしている土岐市スタンダード授業の重点とかかわらせて紹介します。



【土岐津中学校 (11/22)】

活発な話し合い活動をする子ども達の様子がとても印象的でした。課題について全員がじっくりと向き合い、男女分け隔てなく、意見を交換していました。

主体性を高めるための話し合い活動を生み出す基盤として、学級経営の充実を図る

土岐津中学校では学級経営の研究に取り組んでいます。主体性を高めるための話し合い活動を、毎日の短学活の時間に取り入れていることで、学級活動の枠を超えて、教科の授業にも活かされているのだと感じました。



また、参観した音楽の授業では、本時身に付きたい歌い方の工夫について、生徒に2つの歌い方を示して気付かせる導入の工夫をしていました。生徒は本時の終末の姿を具体的に思い描くとともに、そのためにはどんなことをしたら

よいかということについて、自分達で考え気付けていきました。

社会の授業では、市場経済における価格決定の仕組みについて、深めるための発問「台風で落ちたリンゴの数が増えると、なぜ価格が高くなるのか」を投げかけることで、「希少性」という言葉を引き出し、本時の大切なポイントである需要量と供給量の関係に気付かせていました。

どちらの授業も、授業者が出口の姿を具体的に明らかにしているからこそ打てる効果的な手立てでした。

学級経営と教科経営の両輪がうまく機能していることが、これからの土岐津中学校の強みになっていくと感じました。(松原)

【駄知中学校 (11/26)】

「駄知中学校の先生方は、教材研究に手を抜きません。」教務主任や研究主任の先生と懇談をした際に出てきた言葉です。

今年度、学力向上推進委員会では、子どもの終末の姿を具体的にイメージするために、

「〇〇を通して、〇〇に気付き、〇〇することができる」

という本時のねらいの書き方を研究の手立ての一つとしています。駄知中学校の先生方の指導案は、この書き方が当たり前となって示されていました。もちろん、書き方を統一すれば、す

ぐに授業改善につながるわけではありません。

本時に指導すべき内容を、教科書・教材・学習指導要領等から見抜くことが必要となります。教材研究あってこそその「終末の姿の具体化」です。これらを大切にして授業づくりをされた結果、駄知中学校の授業は、「課題」→「学習活動」→「評価」が、ねらいに向かって一本の柱で貫かれていました。



働き方改革が求められる今日の教育現場です。じっくりと腰を据えて教材を研究する時間はなかなかとれないかもしれません。しかし、駄知中学校では若手とベテランの先生が自主的に教科部会を開き、気軽に日常的に教材研究を行っているとのことでした。私自身が初任だった頃に先輩の先生から教えていただいた授業づくりのノウハウは、今も自分の拠り所となっています。それがなければ今以上に授業準備の時間がとられているはずです。

駄知中学校のチームワークのよさが教科の本質に根ざした授業づくりを効率よく下支えしているのだと感じました。(松原)

【肥田小学校 (11/29)】

全体交流の場面で、子ども達から、求めている答えや発言が出てきても、先生方はそれを安易に拾い上げないようにしていました。そして、あえて別の考えをもっている子どもを指名して、思考を揺さぶることを大切にしていました。

なかなか答えにたどり着けず迷う子ども達。しかし、その表情はなぜか、みんな生き生きとしていました。

指導すべき内容をしっかりと身に付けさせようとするあまり授業が教師主導になってしまうことはよくあることですが、子どもはそれに慣れてしまうと、粘り強く追究することを放棄してしまいます。

肥田小学校では、

「自分の考えを広げ深める、対話のある交流活動の工夫」

を、今年度の校内研究の重点に掲げ、「練り合い」を積極的に授業に取り入れていました。

もちろん、何の意図・方途もなく子どもに丸投げの交流では思考は深まりません。交流を深めるための「手立て」が必要です。

肥田小学校の指導案には、教科の見方・考え方を働かせながら追究していくための「追究の視点」が位置付けられていました。肥田小学校の取組の成果は、この日参観した授業における子どもの生き生きとした姿やNRTテストの正答率の変化に表れています。



教務主任と研究主任の先生は、「『練り合いのある授業』を構想することは、労力のいることですが、学年部を中心に活発な授業検討を行ってくれている。ありがたい。」とおっしゃっていました。職員のチームワークのよさが、子どもの学びの質の高さにつながっていました。(松原)

『使命』とは「命を使うこと」

泉小学校附属幼稚園 園長 加藤 一哉

何とか4年間で大学を卒業し、どうにかこうにか岐阜県小中学校教員採用試験に合格しました。教員として山あり谷ありの38年間でしたが、皆さんのお陰で定年まで務め、現在は幼稚園に勤務し、既に4年目となりました。

人生の最終コーナーに入った最近、時々「命」について考えるようになりました。そんな時、1冊の本に出会いました。その著書が「生きていくあなたへ」、著者は107歳で天寿を全うされた医師の日野原 重明さんです。その本の中に書かれていたのが『使命』についてです。あとどれだけ残された命かは誰にもわかりませんが、命について考える機会となりました。

日野原さんは著書の中で「命とは時間の中にあると思っています。そして、その時間をどう使うか、使う目的

がある以上、生きる価値がある。命を使うと書いて『使命』と言います。使命のある限り、生きる意味があると信じている…」と述べてみえます。

年老いた私にも、残された時間の中にきっと『使命』があるはずですが、ましてや我々の目前にいる子どもたちには、それぞれの『使命』があってこの世に生を受けてきたのです。「かけがえのない命」、「たったひとつしかない命」、「過去からつながっているみんなの命」、その命を大切に使うこと、すなわち『使命』を子どもたちに教えていくことが今の教育に求められているのではないのでしょうか。

日野原さんのような生き方はできませんが、自分の『使命』について考えたいと思います。

新しいALT着任

「米国の地元文化を伝えたい！」

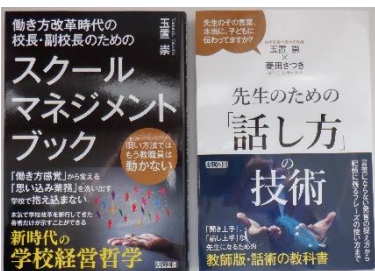


ジョン・チャンス・アレン さん

- ・米ルイジアナ州出身、ルイジアナ工科大学
- ・駄知中校区、肥田中校区の小学校・中学校担当
- ・平安時代を中心とした日本の歴史や日本アルプスの山岳に関心をもつ

Hello! My name is Chance Allen. I am from Ruston, Louisiana, USA, but I have been living in Bloomington, Indiana, USA. I studied Spanish and Business in college at Louisiana Tech University. I like rock climbing, hiking, running, and going to punk shows. Thank you for welcoming me to Toki City

【研究所 新刊紹介】 ※土岐市教育振興基本計画推進・点検委員会委員及び点検・評価者の玉置崇先生(岐阜聖徳大)の著書です。新書版、一気読みできます。



◆ 玉置 崇・菱田さつき 『先生のための「話し方」』

言葉にならない発言の捉え方から、記憶に残るフレーズの使い方まで、「聞き上手」「話し上手」な先生になるための教師版・話術の教科書です。

◆ 玉置 崇 『スクールマネジメントブック』

改めて学校経営を見直す機会や経営戦略を示唆する一冊です。実践に基づいており、とても分かりやすい内容です。次年度の学校経営のヒントを与えてくれるものと思います。

編集後記

出場校の競争だけでなく、駅伝には、関わる全ての人の「ドラマ」があるからこそ、視聴者に多くの感動を与えていると思います。学校・学級も毎日が連続ドラマではないでしょうか。熱い思いで襷をつなぐ年度末の指導をしたいものです。(P1) 日本語初期指導教室の開設を待望します。(P2) 新ALTさんの活躍を期待します。(P8) 先輩や他校の実践から学び合いたいです。(P3~P8) 今年も宜しくお願いします。